

白川村シェッド長寿命化修繕計画

令和7年11月改定

白川村 建設課

1. 計画策定の背景と目的

本計画は白川村が管理をする道路シェッドについて、定期点検に基づく状態の把握、そして計画的な補修を着実に進めることで、シェッドの長寿命化と補修や維持管理に係る費用の縮減を図りつつ、重要な道路ネットワークの安全性・信頼性を確保していくために策定するものである。

2. 施設の現状

1) 対象施設

	施設名	路線名	所在地	建設年次	延長	幅員
1	下田洞門	下田内ヶ戸線	飯島	不明	30.0m	6.8m
2	牧2洞門	福島線	牧	1990年	36.0m	9.8m

2) 施設の現状

白川村が管理をするシェッドは上記の2つであり、下田洞門の建設年次は不明だが、どちらも建設から30年以上の年数が経過していることが想定される。平成30年度に実施をした点検では、漏水のほか下田洞門では横梁部の剥離、柱部のひびわれ等が確認されている。また、牧2洞門は国道156号線改良（付け替え）による払い下げ路線にある施設であり、現在は利用していない状況である。

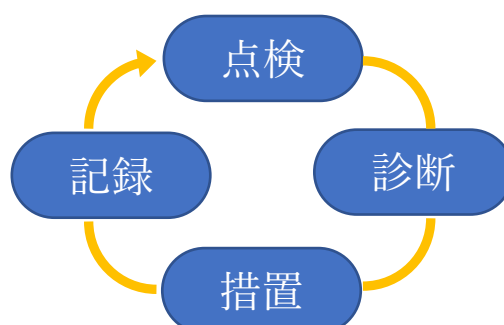
3) 施設の課題

シェッドは施設が崩壊に至った際の復旧が困難であることや、工事に膨大な費用を要することから長寿命化に向けた継続的な管理が望ましい施設である。また、部材の落下などは第三者への影響が大きいことから、予防保全型による管理を行い、道路の安全性・信頼性を確保する取り組みも必要である。この計画的かつ予防的な維持管理を行い、補修に要する費用の縮減や予算の平準化を図るため、定期点検における確実な状況把握と点検結果に基づく確実な対策が重要となっている。

3. 維持管理の基本的な考え方

1) メンテナンスサイクルの基本的な考え方について

シェッドの老朽化対策を確実に進めるため、点検に始まり、診断、措置、記録というメンテナンスサイクルを構築し、持続的に推進する。また、施設の老朽化による維持管理費用の増加が見込まれることも踏まえ、このメンテナンスサイクルの推進による効率的・効果的な維持管理を実施する。



2) 定期点検について

定期点検については施設単位で実施するものとし、シェッド、大型カルバート等定期点検要領（国土交通省道路局）及び岐阜県シェッド点検マニュアル（岐阜県道路維持課）に基づき実施をする。なお、点検は5年に1回の頻度で近接目視を基本とした点検を実施する。

3) 健全性の診断について

点検の結果に基づき健全性の診断を行い、診断結果により次の表のとおり区分する。

トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示(平成 26 年国土交通省告示第 426 号)

区 分		状 態
I	健 全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

4) 対策の優先順位

点検結果に基づき、効果的な維持及び補修が図られるよう必要な措置を講ずる。また、対策の優先順位は損傷程度や損傷位置からみる施設の健全性のほか、路線の重要性や第3者への影響などから総合的に判断する。なお、判定区分IVと診断された施設は最優先で補修する。

点検・調査・補修によって健全度が変更となった場合は計画の見直しを実施する。

5) 記録について

各種点検結果や補修等の履歴を記録、保存する。

4. シェッド個別施設計画

年次計画、補修内容及び点検時期は、別紙一覧のとおり。

5. 長寿命化修繕計画による効果・目標

1) 新技術の活用による目標

点検における新技術の活用について、対象施設の数や規模の関係からコスト縮減が見込めないなど速やかに実施できない状況ではあるが、更なる最新技術の情報収集や活用について継続的に実施、検討を行う。また、下田洞門において今後修繕の検討を行う際に新技術情報提供システムの登録技術を活用し、費用の削減に努める。

2) 集約化・撤去による目標

村が管理をするシェッドは迂回路がないことから集約化・撤去はしない方針とする。なお、牧2洞門は先述のとおり利用していない状況であることから、今後国道との関係や現地の状況などを考慮しながら廃止の検討を行う。

白川村シェッド個別施設計画

施設名	路線名	所在地	完成 年度	延長	幅員	最新の点検結果		修繕計画															対策 内容	時期	対策 費用																			
						点検 年度	判定 区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14				R15																		
下田洞門	下田内ヶ戸線	飯島	不明	30.0m	6.8m	R5	Ⅲ	点検						点検			設計	修繕	点検					点検	ひび割れ 被覆材等 補修 漏水補修	R6 ～ R9																		
															←健全性Ⅲ部分補修→										←点検結果を踏まえて 検討・実施→																			
牧2洞門	福島線	牧	1990 年	36.0m	9.8m	R5	I	点検						点検					点検					点検																				

対策費用単価：千円